

○三陸北部森林管理署久慈支署の「労働災害防止協議会及び採材検討会」に出席しました。

青森事務所では毎年、森林管理署等の採材現地検討会等に参加し、技術指導や情報提供などを行うことで、国有林材を円滑・効果的に活用するよう努めています。

令和2年9月30日(水)に岩手県久慈市山形町の平庭国有林で開催された「労働災害防止協議会及び採材検討会」に、青森事務所から2名出席してきました。

コロナ感染症予防対策でマスクを着用したなか、林業関係団体や県・市町村担当者、製材業者、支署管内の林業事業者など約30名が参加者し開催されました。

会場となったのはカラマツ間伐箇所でしたが、今回の採材検討会ではブナ、トチ、センの広葉樹の採材について検討を行いました。

支署長の挨拶後、署担当者から当該箇所の事業概要と広葉樹の採材、及び令和2年度の東北森林管理局管内の請負事業の災害概要等について資料を元に説明があり、続いて請負者による伐倒、造材作業の実演が行われました。実演後、二戸労働基準監督署から林業の労働災害や安全作業等についてご指導いただきました。

採材の検討に移り、岩手県森林組合連合会から最近の市況等について具体的に説明していただき、続いて青森事務所からは、採材の基本的事項やスギ等針葉樹合板材の4m採材、広葉樹の一般材比率の向上や生産性向上の取組みについて説明・周知させていただきました。

その後、ブナ、トチ、センの広葉樹について、3班に分かれ採材方法の検討を行いました。3班とも同じ様な検討結果でしたが、試供木を元に、岩手県森林組合連合会から採材の考え方などを説明していただきました。大径木だが根元が腐って空洞となっていたブナについて、一般材が取れないか検討し造材してみたところ、腐れが無くなり一般材として利用できるなど、工夫次第で有利採材できることを確認しました。

青森事務所では今後も採材検討会に積極的に参加し、国有林材の有効な利用に貢献して参りたいと考えています。

